

平成30年度事業報告

平成30年度 事業報告 目次

I. 総括	4
II. 実施事業	5
1. 鳥類等の野生生物保護及び自然保護の精神を育成するための普及啓発活動	5
1-1 バードピア推進事業	5
1-2 愛鳥週間関連行事	5
1-3 愛鳥懇話会	6
1-4 ビジターセンター等施設における解説・管理	6
1-5 巣箱架設行事・活動	6
1-6 野鳥保護に関するキャンペーン	7
1-7 講師依頼	7
1-8 イベントによる普及啓発活動	8
1-9 普及啓発を目的とした商品の販売促進	9
2. 鳥類等の野生生物保護に関わる調査研究事業	9
2-1 自主調査および保護研究事業	9
2-2 受託・請負事業	11
2-3 鳥類保護の国際協力に関する事業	13
3. 鳥類等の野生生物保護に関わる個人及び団体による功労の表彰に関する事業	13
3-1 2018年度愛鳥週間野生生物保護功労者表彰	13
3-2 第53回全国野生生物保護実績発表大会	13
4. 組織及び連盟運営の拡充に関する活動及び事業	14
4-1 機関誌「私たちの自然」	14
4-2 支部会議の開催	14
4-3 支部報	14
4-4 ホームページ・フェイスブック・連盟案内	15
4-5 寄付を獲得するための活動	15

I. 総括

平成 30 年度も、平成 29 年度同様、本部収支のさらなる改善がなされるよう公益事業活動の維持及び発展のための基盤づくりと環境整備を目指した活動を継続した。

第 72 回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」をはじめとする愛鳥週間関連事業は、環境省他関係各機関の協力の下で実施され、当連盟の普及啓発活動の中核となっている。「全国野鳥保護のつどい」については、常陸宮殿下ご臨席のもと、記念式典、愛鳥パーティー等が東京都下新宿区において滞りなく行われた。また、「第 53 回全国野生生物保護実績発表大会」については、固定化しつつある応募校の拡大を図るための努力を行うとともに、前年に引き続き、個人・企業・団体に協賛を依頼した。

調査研究事業においては、国内におけるコアジサシの渡りルート解明に関する調査・研究を継続するとともに、国際協力事業としてリトアニア共和国におけるコアジサシの渡りルート解明に関する調査を継続した。また、これらの成果をカナダのバンクーバーで開催された国際鳥学会において発表した。さらに、平成 28 年度から新たに開始したフィリピン共和国における猛禽類の渡りのルート解明や猛禽類保護に資する植樹などの協力を継続した。

バードピア事業については、本部における体制を再構築するとともに、ホームページ、イベント、ロコミ、野鳥関連商品等を通して、登録者を増やす努力をした。

機関紙「私たちの自然」については、編集会議を定期的に関き、紙面の充実に努めた。

公益財団法人として、本部と各支部間及び支部相互間の協力・連携を図ることを目指して、平成 29 年度に初めて開催した支部会議を継続した。

平成 28 年度に設置された「連盟活性化委員会」からいただいた当連盟の収支改善のための貴重なアドバイスの一部について実施に向け検討した。今後も同委員会からアドバイスをいただきながら努力を続け、安定的な公益事業の基盤づくりを行っていききたい。

II. 実施事業

1. 鳥類等の野生生物保護及び自然保護の精神を育成するための普及啓発活動

1-1 バードピア推進事業

新規登録を進める一方、今までの事業を見直し、新たな活動も始めた。

(1) 団体登録者へのサービス

既存の登録者のうち宣伝を希望する団体をホームページで紹介するためのコーナーを設ける準備を始め、登録者に声をかけた。

(2) ホームページ等による登録者増の努力

ホームページ、イベント、口コミ、野鳥関連商品等でバードピアをさらに普及し、登録者を増やす努力をした。平成30年度末現在の登録者数は企業52社、個人192人。

(3) 新しい巣箱の開発と調査

都市部に合った巣箱の開発を目的として、試作品を製作し、合計6か所に巣箱を架け、従来の巣箱との比較調査を2か年計画で始めた。

1-2 愛鳥週間関連事業（愛鳥週間 平成30年5月10日～5月16日）

(1) 第72回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」

5月13日（日）に京王プラザホテル（東京都新宿区）をメイン会場に、環境省・（公財）日本鳥類保護連盟共催、文部科学省・林野庁の後援により常陸宮殿下のご臨席の下に開催した。記念式典では、野生生物保護功労者の表彰が行われ、その後、「第52回全国野生生物保護実績発表大会」で林野庁長官賞を受賞した尼崎市立世良中学校の生徒11名による活動発表が行われた。

式典終了後、会場を移し、約100名の方々を迎え、愛鳥パーティーが行われた。

なお、関連行事として、愛鳥パーティー終了後、東京都大田区にある東京港野鳥公園に場所を移し、野生生物保護功労者表彰の受賞者の方を中心にフィールドワークを行った。

(2) 平成31年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール

全国の小・中・高校生を対象に環境省・文部科学省・林野庁の後援を得て、実施した。3,684校から55,659点の応募があり、この中から各都道府県より推薦された399点を審査し、平成31年度愛鳥週間用ポスターの原画とな

る総裁賞のほか、環境大臣賞などの入賞作品を選定した。また、支部は、都道府県知事推薦作品の選定などに協力した。

総裁賞には山形県山形市立第十小学校5年生 鈴木美羽さんの作品が選定された。スズメが描かれた温かみのある愛鳥週間にふさわしい作品であり、その原画をもとに平成31年度愛鳥週間用ポスターを制作し、各都道府県に配布した。

(3) 愛鳥週間関連各種普及啓発事業

平成30年5月8日(火)から13日(日)の間、新宿御苑インフォメーションセンターのアートギャラリーにおいて、「野鳥を知るバードカービング展 日本の絶滅が危ぶまれる野鳥」を共催した。バードカービングの展示と合わせ、平成30年度愛鳥週間用ポスター原画コンクールの総裁賞、その他受賞者作品のパネルによる紹介と作者コメントの紹介を行った(期間中来場者2,232名)。

支部においては、自然観察会、探鳥会、愛鳥週間用ポスター展、愛鳥写真展及び表彰など、愛鳥思想の普及啓発行事を開催した。

1-3 愛鳥懇話会

12月13日(木)に日比谷松本楼において、常陸宮殿下のご臨席を賜り、約80名の参加により、愛鳥懇話会を開催した。なお、懇話会に先立ち、平成31年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール総裁賞の授与式が行われ、山形県山形市立第十小学校5年の鈴木美羽さんに賞状と記念品が贈られた。

1-4 ビジターセンター等施設における解説・管理

国が管理する釧路湿原国立公園温根内ビジターセンター及び塘路湖エコミュージアムセンターにおいて解説・管理を請け負い、普及啓発活動を実施した。なお、この活動は釧路支部が行った。

1-5 巣箱架設行事・活動

以下の5ヵ所で合計9回、巣箱架設事業を行った。児童向けプログラムでは巣箱作り、巣箱架け、巣箱調査を行った。

(1) 憲政記念館の巣箱架け

3月13日(水)に鳥類保護議員懇話会(代表：野田 毅 衆議院議員)との共催により、同懇話会に所属する国会議員、環境省のほか、千代田区の小学校生徒の参加、協力を得て、国会議事堂前の憲政記念館北庭園において、巣箱の架設を実施した。[参加者約90名]

(2) 麴町小学校・お茶の水小学校(講師依頼)

9月22日(土)巣箱調査[参加者71名]・2月2日(土)巣箱作り[参加者85名]

(3) 新宿御苑

11月18日(日)巣箱調査[参加者57名]・12月16日(日)巣箱作り/巣箱架け
[参加者65名]

(4) 所沢航空発祥記念館・所沢航空記念公園管理事務所(講師依頼)

9月24日(月・祝)巣箱調査[参加者16名]・11月23日(金・祝)巣箱作り/巣
箱架け[参加者59名]

(5) まちの保育園(講師依頼)

11月15日(木)巣箱調査[参加者25名]・1月22日(水)巣箱作り/巣箱架け[参
加者25名]

1-6 野鳥保護に関するキャンペーン

(1) 「ヒナを拾わないで!!」キャンペーン

4月1日から7月31日までを期間とし、(公財)日本鳥類保護連盟、(公財)日本野鳥の会及びNPO法人野生動物救護獣医師協会の3団体の共催、環境省の後援により実施した。都道府県及び企業・団体の協賛、協力を得て、普及啓発ポスターを3団体で合計100,000枚を作成し、自治体、学校、公共施設、動物病院などに配布を行い、メディア取材に積極的に対応し、野鳥のヒナを安易に拾わないよう広く呼びかけを行った。

(2) 全国一斉テグス(釣り糸)ひろい2018

5月1日から10月31日までを期間として8府県、18地点において実施した。

本部・支部、会員及び専門委員のほか、関係団体並びに一般の参加を得て、海岸、河川及び湖沼などに放置され、野鳥に絡まり、大きな影響を及ぼしうるテグスなどの回収を実施した。

回収されたテグスの総量：12,532.0m(1g=13m)

テグス以外：釣り針、ルアー、ワーム、おもり、ウキ、疑似餌、金具類、釣り竿、天秤、タモ等

1-7 講師依頼

以下の6カ所から講師依頼を受け、それぞれのテーマに沿って講習等を行った。

- (1) (一財) 国民公園協会
「集まれキッズカメラマン」
12月1日(日) 新宿御苑[参加者19名]
- (2) NHK文化センター青山教室
「はじめてのバードウォッチング」
9月27日(木)オリエンテーション(於：NHK文化センター青山教室)[参加者3名]、10月11日(木)新宿御苑[参加者6名]、11月8日(木)小石川植物園[参加者7名]、12月20日(木)浮間公園[参加者8名]、1月10日(木)洗足池公園[参加者8名]、2月14日(木)浜離宮庭園[参加者8名]、3月14日(木)砧公園[参加者9名]
- (3) 麴町小学校・お茶の水小学校
「バードウォッチングに出かけよう!」
2月23日(土)北の丸公園[参加者85名]
- (4) 所沢航空発祥記念館・所沢航空記念公園管理事務所
「鳥の巣を作ってみよう!」
2月24日(日) 所沢航空記念公園[参加者26名]
- (5) 杉並区社会教育センター
「中学生フューチャーサイエンスクラブ・鳥の不思議な世界へようこそ!」
8月1日(水)高円寺中学校[参加者59名]、「すぎなみサイエンスフェスタ・鳥の色塗り教室」3月3日(日)セッション杉並[参加者100名]
- (6) 公益財団法人堀内浩庵会
「愛鳥のつどい」
5月14日(月) 山中湖村文学の森

1-8 イベントによる普及啓発活動

以下のとおり、当連盟の活動紹介、普及啓発用商品の販売などを行った。

- (1) ジャパンバードフェスティバル2018
11月3日(土)～4日(日)千葉県我孫子市手賀沼周辺[来場者数40,000人]
- (2) 木の鳥グランプリ ジャパン・ワイルドファウル・カービング・コンペティション
12月22日(土)～23日(日)千住ミルディス I 番館(東京都足立区)[来場者数400人]

1-9 普及啓発を目的とした商品の販売促進

野鳥カレンダー、野鳥シート、バードピンズ及び新型の音声再生ペン（G-Speak）などの商品の販売促進に努め、ニーズに応えたデザインの変更、仕様変更を進めた。また、ペットフード業界との協力でバードピア事業を視野に入れた商品の企画提案を行い、野鳥のエサ、バードフィーダー商品開発及び製品化・販売計画を進めた。

2. 鳥類等の野生生物保護に関わる調査研究事業

2-1 自主調査および保護研究事業

(1) コアジサシの渡りルート解明に関する調査

a. 国内

絶滅危惧種コアジサシの渡りルートや中継地、越冬地を把握して保護に役立てることを目的として、平成25年度からジオロケーター（渡りルートを把握するための機器）をコアジサシに装着、平成27年度からはより詳細なデータを得るためにGPSロガーを装着している。GPSロガーは平成28年度までに国内で86羽に装着したが、装着方法に問題があり回収できなかったため、平成29年度は装着方法を改善し、新たに38羽に装着した。しかし、平成30年度は気象条件が悪く、コアジサシが安定した繁殖をすることができなかったため、GPSロガーは回収できなかった。本調査研究活動は、三井物産環境基金より助成を受けて行ってきた。助成期間は平成30年度で終了であったが、成果が得られなかったため延長契約を結んだ。

b. 海外

ヨーロッパにおけるコアジサシの渡りルートや中継地、越冬地を把握して、種レベルでの保全及び国内亜種と比較することによってコアジサシの生態をより詳しく把握し、保護に役立てることを目的として、リトアニア共和国において、平成28年度までにジオロケーターを22羽に装着し、平成29年度には8羽からジオロケーターを回収できた。これによって渡りルートの概要は把握できたが、より詳細なデータを得るために、平成30年度までにGPSロガーを9羽に装着した。

なお、本調査研究活動は、イオン環境財団より助成を受けて行った。

c. 成果の報告

8月にカナダのバンクーバーで行われた第27回国際鳥類学会議において、三井物産環境基金からの助成に係る国内の成果及びイオン環境財団からの

助成に係るリトアニアの成果の報告を、それぞれポスター発表で行った。

「Migratory Route of the Little Tern *Sternula albifrons* in the East Atlantic Flyway.」

「Analysis of the Little Tern *Sternula albifrons* wintering area by use of light – level Geolocators.」

「Are Little Terns *Sternula albifrons* breeding in Okinawa and East Japan different population?」

(2) シマフクロウ保護のための活動

国のシマフクロウ保護増殖事業の一環として、巣箱の設置、営巣確認調査、標識調査、給餌等を請け負って進める一方、国の予算で不足する部分を寄付金等で補いながら、調査研究及び保護活動を進めた。

(3) ワカケホンセイインコの調査研究

外来種であるワカケホンセイインコは現在ねぐらが分散しており、そのねぐらも安定せず移動を繰り返している。ねぐらが安定しないと分布が広がり、農業被害へつながる可能性があるため、ねぐらの把握につとめ、さらには現状を把握するためにねぐらにおけるカウント調査を12月に実施した。

また、これまで集めた情報を報告するため、8月にカナダのバンクーバーで開催された国際鳥類学会議でポスター発表したほか、9月に新潟県で開催された日本鳥学会の大会でポスター発表をした。

「The current state of invasive Rose-ringed Parakeet(*Psittacula krameri manillensis*) around the Tokyo area」 (国際鳥類学会議)

「ワカケホンセイインコ (*Psittacula krameri manillensis*) のねぐら環境の報告」 (日本鳥学会大会)

平成30年度はNHKから番組制作への協力依頼があり、ワカケホンセイインコに関する情報提供および取材協力をしたほか、原産地の一つと考えられているスリランカでの取材に同行した。

(4) 専門委員活動

鳥類保護に関心や経験を有し、指導力、実践力のある方や、鳥類を主とする観察会、または鳥類調査についての知識と経験を有する方に委嘱しており、これらの方々にモニタリング調査、機関誌などへの情報提供及び地域の愛鳥思想普及啓発活動を呼び掛けた。

- (5) ガン・カモ類生息調査、ツバメ調査、ハクチョウ調査、鳥獣生息調査
石川県支部としてツバメ調査に関わった。富山県支部としてハクチョウ一斉調査を行った。岡山県支部として鳥獣生息調査を行った。
- (6) 愛鳥モデル校の指導等
石川県支部として愛鳥モデル校の指導・育成に関わった。

2-2 受託・請負事業

環境省等国の機関、地方公共団体及び企業から、シマフクロウ保護増殖事業をはじめとした鳥類調査の業務・事業を受託・請負し、実施した。

- (1) シマフクロウ保護増殖事業（再掲）
国が策定した「シマフクロウ保護増殖事業計画」に基づき、シマフクロウを絶滅の危機から救うため、環境省、林野庁、標茶町の受託又は請負事業として、主に釧路支部において、給餌池への活魚の給餌、巣箱の設置、雛への標識調査、監視・生息状況調査などを実施した。
- (2) 地方公共団体及び企業からの鳥類調査請負
サントリー天然水の森の鳥類調査（サントリーホールディングス株式会社）、国指定天然記念物の十三崖のチョウゲンボウ繁殖地の調査（長野県中野市）など、鳥類に関する事業を請け負い、実施した。

平成30年度受託・請負事業一覧

区分	事業名	担当	発注者
I 受託事業	1 平成30年度全国野鳥保護のつどい記念式典等実施業務	本部	環境省
	2 平成30年度日中トキ生息保護協力業務	本部	環境省
	3 平成30年度シマフクロウ保護増殖事業 (生息状況調査・給餌・巣箱設置等業務)	釧路	環境省 釧路自然環境事務所
	4 平成30年度シマフクロウ保護増殖事業 (管内生息地確立及び拡大業務)	釧路	環境省 北海道地方環境事務所
	5 平成30年温根内ビジターセンター解説・管理業務	釧路	環境省 釧路自然環境事務所
	6 平成30年度塘路湖エコミュージアムセンター解説・管理業務	釧路	環境省 釧路自然環境事務所
II 請負事業	1 サントリー天然水の森 鳥類調査	本部	サントリーホールディングス(株)
	2 国の事業に関わる鳥類調査	本部	アジア航測(株)
	3 平成30年度希少野生動植物種保護管理事業(シマフクロウ)	釧路	林野庁 根釧東部森林管理署
	4 平成30年度希少野生動植物種保護管理事業(シマフクロウ)	釧路	林野庁 根釧西部森林管理署
	5 平成30年度釧路湿原国立公園自然ふれあい活動業務	釧路	釧路湿原国立公園連絡協議会
	6 平成30年度釧路湿原保全巡視業務	釧路	標茶町
	7 平成30年度 国庫補助事業 中野市十三崖のチョウゲンボウ 繁殖地保全整備事業 モニタリング調査業務委託	本部	長野県中野市
	8 長野県木曾町における調査・アドバイス	本部	NPO 法人ナチュラルフェローズ
	9 「中学生フューチャーサイエンスクラブ」、「「すぎなみサイエンスフェスタ」の業務委託	本部	杉並区社会教育センター

2-3 鳥類保護の国際協力に関する事業

(1) フィリピンにおける国際協力事業

フィリピン共和国（以下、フィリピン）において、NGO がボランティアで実施しているサシバ等の保護活動に協力するため、平成 28 年度から中古双眼鏡の募集を実施しており、平成 30 年度も中古双眼鏡を集め寄贈した。このほか、猛禽類の渡りルートの把握に協力した。また、渡りを行う猛禽類や希少なフィリピン特産の猛禽類の生息環境や餌環境を育んでいくため、フィリピンのミンダナオ島 2 か所において植樹活動に協力した。

なお、平成 30 年度は経団連自然保護基金より助成を受けて行った。

(2) 日中トキ協力事業

「日中共同トキ保護計画」に基づき、環境省の受託業務として、中国における野生のトキ個体群の保護・回復、生息環境の保護・整備、飼育下個体群の育成及び野生復帰を効果的に進めるとともに、日本の佐渡における野生復帰の取組みの参考とするために必要な調査、協力等の業務を目的とし、日中トキ生息保護協力に関する関連情報の収集を行った。また、中国から提供されたトキ2羽(楼楼・雄 / 関関・雌)について佐渡トキ保護センター野生復帰ステーションへの輸送及び関連業務を行った。

(3) 日露渡り鳥保護協力事業

11月にロシアから関係者7名を招待し、ロシア科学アカデミーとの渡り鳥の保護に関する協力及び交流を実施した。

3. 鳥類等の野生生物保護に関わる個人及び団体による功勞の表彰に関する事業

3-1 2018年度愛鳥週間野生生物保護功勞者表彰

5月13日（日）に京王プラザホテルで開催された第72回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」において、総裁賞のほか環境大臣賞などの野生生物保護功勞者の表彰が行われた。

3-2 第53回全国野生生物保護実績発表大会

11月26日(月)に環境省講堂において、環境省との共催、文部科学省・林野庁の後援により開催した。

都道府県知事から推薦された小・中・高校・団体の児童・生徒による野生生物保護の活動実績の中から、事前審査で選定された10件の活動の発表を審査し、優秀校に対して環境大臣賞などの表彰を行った。

平成30年度においても、昨年度同様、固定化しつつある応募校の拡大を図るための努力を行うとともに、個人・企業から協賛金を集め、参加者の旅費支援に充当した。

4. 組織及び連盟運営の拡充に関する活動及び事業

4-1 機関誌「私たちの自然」

発行回数：機関誌を6回発行した。（2018年5・6月号 No. 616～2019年3・4月号 No. 621）※隔月発行。

発行部数：2,500部（各誌）

配布先：会員、愛鳥モデル校、自然保護団体、都道府県自然環境担当部局および教育委員会等。また、広報活動の一環として各種行事（ジャパンバードフェスティバルおよび連盟後援催事、等）において無料配布した。

平成30年度においても、前年度に設置した編集会議の元、誌面の充実を図るために協議し、特に以下のことに留意し誌面づくりを行った。

- ・「特集」においては、テーマに対し、いろいろな角度から現在の状況・問題点等を多面的に読者に紹介するように努めた。
- ・わかりやすい誌面づくり（中学生が読んでも理解できる程度の内容）を心掛けた。
- ・寄付を募るためにも、当連盟の活動を分かりやすく読者に紹介し、読者の理解を得るよう努めた。

4-2 支部会議の開催

10月18日(木)東京都杉並区において、本部と支部間及び支部相互間の協力・連携をさらに図っていくことを目指して、支部会議を開催した。釧路支部、岩手県支部、茨城県支部、神奈川県支部、山梨県支部、富山県支部、石川県支部、連盟京都が参加し、情報共有、今後の取り組みについての意見交換などを行った。

4-3 支部報

富山県、石川県、山梨県、茨城県、神奈川県、連盟京都の各支部が、支部報「らいちょう」、「朱鷺」、「うぐいす」、「かわせみ便り」、「フレンドリー」「うぐいす」をそれぞれ発行し、各地域の愛鳥思想普及啓発を推進した。

4-4 ホームページ・フェイスブック・連盟案内

(1) ホームページ

連盟の活動をアピールするために、団体概要、入会案内、寄付、活動内容、商品について最新の情報を提供できるよう努めた。

(2) フェイスブック

連盟の事業について、できるだけ早く簡潔に短い文で情報を投稿し、詳しい内容はホームページに掲載するようにした。コメントをもらったり返信したりすることでコミュニケーションを図り、双方向の交流ができるように努めた。その結果、当初よりフォロー数も増えている。

(3) 連盟案内

ホームページの内容のエッセンスを紙媒体にし、連盟を知ってもらうためのツールとして活用した。今年度は内容・デザインのリニューアルを行った。

4-5 寄付を獲得するための活動

(1) シマフクロウ保護のための寄付

シマフクロウの保護活動への寄付を集めるため、寄付者に贈呈するクリアファイルやマスコットを作成した。これにより204,423円が集まった。

(2) その他

普及啓発活動及び調査研究事業を円滑に行うため、使用済み切手の募集、巣箱事業等の各事業に対する寄付など、個人や企業を対象として中古双眼鏡（再掲）等物品を含む寄付を募った。